

2021年 全日本けん玉道選手権大会 変動種目

⑪オリンピック一周、⑫聖火点灯

⑪オリンピック一周

(日本一周～世界一周～県一周～ヨーロッパ一周～宇宙一周)

【持ち方】 とめけんの持ち方

【技の動作】

「日本一周」を完成させる。その後玉を下につり下げて構え直すのではなく、直接世界一周に移行し「世界一周」を完成させる。その後同様に世界一周完成後に直接県一周に移行し「県一周」を完成させる。その後同様に県一周完成後に直接ヨーロッパ一周に移行し「ヨーロッパ一周」を完成させる。その後同様にヨーロッパ一周完成後に直接宇宙一周に移行し「宇宙一周」を完成させる。

【注意事項】

- ・「日本一周」完成までの動作及び注意事項は「日本一周」の項目を参照のこと。
- ・「世界一周」完成までの動作及び注意事項は「世界一周」の項目を参照のこと。
- ・「県一周」完成までの動作及び注意事項は「県一周」の項目を参照のこと。
- ・「ヨーロッパ一周」完成までの動作及び注意事項は「ヨーロッパ一周」の項目を参照のこと。
- ・「宇宙一周」完成までの動作及び注意事項は「宇宙一周」の項目を参照のこと。
- ・玉をけんから皿に乗せるとき、および玉をけんからけん先と皿胴に乗せるとき(宇宙一周に移行するとき)には、「回転」(玉を回転させて皿に乗せる)又は「抜き」(玉を回転させずに皿に乗せる)など特に制限しない。
- ・玉は確実に皿の上に乗ること。玉は確実にけん先と皿胴に乗ること。玉の穴にけん先が完全に入ること。
- ・つり下げた玉を「小皿」(もしくは大皿)に乗せる動作をするために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・つり下げた玉を「小皿」(もしくは大皿)に乗せる動作をするために、あるいは「皿～けん」、「けん～皿」、「けん先と皿胴～けん」を行う際に、膝をまげる、手を上下させる等の玉を空中に上げるための予備動作を開始した後に、玉の穴がけん先から抜けなかったので再度やり直したなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・連続技における修正行為の禁止事項を守ること。

★試技開始合図(「はじめ」の発声)から15秒以内に試技を開始し、試技開始合図から40秒以内に試技を終了すること。(いわゆる15秒40秒ルールは適用される)

※ 日本学生けん玉連盟主催の全日本フリースタイル選手権にて、20年ほど前に提示されたことのある種目です。

【参考】オリンピック一周の要素となっている各一周技の規程

日本一周

【持ち方】 とめけんの持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。けんを動かして玉を引き上げて小皿に乗せる。次に玉を投げ上げ大皿に玉に乗せる。最後に玉を投げ上げ玉の穴にけん先を入れる。

【注意事項】

- ・最初の皿乗せは、大皿でも小皿でもよい。すなわち、「小皿～大皿～けん」又は「大皿～小皿～けん」の順で行うこと。
- ・玉は確実に皿の上に乗ること。玉の穴にけん先が完全に入ること。
- ・「構え」の状態からつり下げた玉を小皿（または大皿）に乗せる動作をするために、玉を上下に動かす、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・技を開始した後に、玉を手で押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・連続技における修正行為の禁止事項を守ること。

世界一周

【持ち方】 とめけんの持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。けんを動かして玉を引き上げて小皿に乗せる。次に玉を投げ上げ大皿に玉に乗せる。続いて玉を投げ上げ中皿に玉に乗せる。最後に玉を投げ上げ玉の穴にけん先を入れる。

【注意事項】

- ・最初の皿乗せは、大皿でも小皿でもよい。すなわち、「小皿～大皿～中皿～けん」又は「大皿～小皿～中皿～けん」の順で行うこと。玉は確実に皿の上に乗ること。玉の穴にけん先が完全に入ること。
- ・「構え」の状態から玉を引き上げるために、玉を上下に動かす、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・技を開始した後に、玉を手で押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・連続技における修正行為の禁止事項を守ること。

県一周

【持ち方】 とめけんの持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。けんを動かして玉を引き上げて中皿に玉に乗せる。次に玉を投げ上げ玉の穴にけん先を入れる。

【注意事項】

- ・玉を中皿に乗せる時は、玉は確実に皿の上に乗ること。
- ・玉の穴にけん先が完全に入ること。
- ・「構え」の状態から玉を引き上げるために、玉を上下に動かす、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・技を開始した後に、玉を手で押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・連続技における修正行為の禁止事項を守ること。

ヨーロッパ一周

【持ち方】 とめけんの持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。けんを動かして玉を引き上げて小皿に玉を乗せる。その後玉を投げ上げ玉の穴にけん先を入れる。次に玉を投げ上げ大皿に玉を乗せる。その後玉を投げ上げ玉の穴にけん先を入れる。続いて玉を投げ上げ中皿に玉を乗せる。最後に玉を投げ上げ玉の穴にけん先を入れる。

【注意事項】

- ・大皿～けん～小皿～けん～中皿～けんの順でもよい（～けん：玉の穴にけん先を入れること）。
- ・玉をけんから皿に乗せるときは、「回転」（玉を回転させて皿に乗せる）又は「抜き」（玉を回転させずに皿に乗せる）など特に制限しない。
- ・玉は確実に皿の上に乗ること。玉の穴にけん先が完全に入ること。
- ・つり下げた玉を小皿に乗せる動作をするために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・つり下げた玉を小皿（または大皿）に乗せる動作をするために、あるいは「皿～けん」、「けん～皿」を行う際に、膝をまげる、手を上下させる等の玉を空中に上げるための予備動作を開始した後に、玉の穴がけん先から抜けなかったので再度やり直したなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・連続技における修正行為の禁止事項を守ること。

宇宙一周

【持ち方】 とめけんの持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。けんを動かして玉を引き上げて「けん先と皿胴」に玉を乗せる。その後玉を投げ上げ玉の穴にけん先を入れる。次に玉を投げ上げ小皿に乗せる。その後玉を投げ上げ玉の穴にけん先を入れる。次に玉を投げ上げ大皿に玉を乗せる。その後玉を投げ上げ玉の穴にけん先を入れる。続いて玉を投げ上げ中皿に玉を乗せる。最後に玉を投げ上げ玉の穴にけん先を入れる。

【注意事項】

- ・「けん先と皿胴」に玉を乗せる時は、玉は糸の出ている側の「けん先と皿胴」に乗せること。
- ・けん先と皿胴～けん～大皿～けん～小皿～けん～中皿～けんの順でもよい（～けん：玉の穴にけん先を入れること）。
- ・玉をけんから皿に乗せるときは、「回転」（玉を回転させて皿に乗せる）又は「抜き」（玉を回転させずに皿に乗せる）など特に制限しない。
- ・玉は確実に皿の上に乗ること。玉の穴にけん先が完全に入ること。
- ・つり下げた玉を「けん先と皿胴」に乗せる動作をするために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・つり下げた玉を「けん先と皿胴」に乗せる動作をするために、あるいは「けん先と皿胴～けん」、「皿～けん」、「けん～皿」を行う際に、膝をまげる、手を上下させる等の玉を空中に上げるための予備動作を開始した後に、玉の穴がけん先から抜けなかったので再度やり直したなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・連続技における修正行為の禁止事項を守ること。

⑫聖火点灯

【持ち方】 玉の持ち方

持ち替え後の持ち方 ろうそくの持ち方

【技の動作】

「飛行機」を完成させた後、けんを投げ上げけんを手前に1回転させ玉を投げ上げ、回転してきたけんのけん先をつかみ玉を中皿に乗せる。

【注意事項】

- ・けん先が完全に玉の穴に入ること。
- ・けんを投げ上げるための、膝をまげる、手を上下させる等の予備動作を開始した時点で技が開始されたと見なす。
- ・技を開始した後に、投げ上げようとしたけんが玉の穴から抜けなかったので、再び投げ上げるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
 - ・けん先をつかんだ時、皿胴を持ってはならない。
 - ・玉が中皿に乗った時、玉と皿の間に糸がはさまった場合は可とする。
- ・技は片手で行うこと（玉を持った手でろうそくの持ち方に持ち替えること）。
- ・連続技における修正行為の禁止事項を守ること。
- ・「飛行機」完成までの動作及び注意事項は「飛行機」の項目を参照のこと。

★2017年の全日本選手権で採用された「聖火点灯」と同一の種目です。